

月例経済報告（2021年12月）

● 月例経済報告（12/21）

基調判断	(12月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和される中で、<u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u> 経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、変異株をはじめ感染症による内外経済への影響や金融資本市場の変動等の影響を注視する。 (11月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられる。 経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による内外経済への影響や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。
個人消費	(12月) <u>このところ持ち直している。</u> (11月) 一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。 消費総合指数と実質総雇用者所得
設備投資	(12月) <u>持ち直しに足踏みがみられる。</u> (11月) 持ち直している。 製造業・非製造業の設備投資(名目額)
住宅建設	(12月) <u>おおむね横ばいとなっている。</u> (11月) このところ持ち直しの動きがみられる。 住宅着工戸数(季節調整値)
雇用情勢	(12月) 感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に<u>持ち直しの動き</u>もみられる。 (11月) 感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。 雇用者数、就業者数の推移

生産	(12月) 持ち直しに足踏みがみられる。 (11月) 持ち直しに足踏みがみられる。	鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移															
輸出	(12月) おおむね横ばいとなっている。 (11月) おおむね横ばいとなっている。	地域別輸出入数量指数 ①輸出 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>11月</th> <th>3MA</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>+6.9%</td> <td>+0.4%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>+2.5%</td> <td>▲1.1%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>+3.6%</td> <td>▲2.5%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>+3.4%</td> <td>+0.9%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	11月	3MA	全体	+6.9%	+0.4%	アジア	+2.5%	▲1.1%	アメリカ	+3.6%	▲2.5%	EU	+3.4%	+0.9%
地域	11月	3MA															
全体	+6.9%	+0.4%															
アジア	+2.5%	▲1.1%															
アメリカ	+3.6%	▲2.5%															
EU	+3.4%	+0.9%															
国内企業物価	(12月) 上昇している。 (11月) 上昇している。	企業物価の推移															
消費者物価	(12月) 底堅さがみられる。 (11月) 底堅さがみられる。	消費者物価の推移															
海外経済	(12月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。また、変異株をはじめとする感染の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。 (11月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。また、感染の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。																